東京都三士会「生活期リハビリテーション評価表(訪問版)」 ver2.0

				Я	ᄝᄶ	=.46	=:	云「生冶朔リハロ	- リナーショノ評価	JZ		ver∠.∪				_	評価日	3	00	年	10	月	6	В
氏名:	A										(女)		生生	手月日 :	S		0	年	0	月	0	В	70	歳
疾患名	: 脳梗塞(右 <i>)</i>	十麻』	車)、	失語	症								既往	注症:	不整脈((心房約	田動)、i	高血圧						
介護度	要介護3												記2	入者名:	0000)					(職種	P	T)
<本人の	の希望>																							
動かな	くなった右手を少して	きも良	:くし†	たい。		もうタ	 レしし	っかりとしゃべれるよ	うになりたい。															
<家族	等の希望>											くリスク	>											
妻の病元のよう	気の回復を手伝って うになってほしいが無	あげ 乗理は	たいはしな	V V.	できた	ない	ことに	は手伝っていきたい。				高血圧、	不整脈	発症直征	後の入院中に	に褥瘡	の既往	あり						
<1B	の過ごし方>																							
時	間 O		1	:	2		3	4 5	6 7 8		9 10	11 12	13	14	15 1	16	17	18	19	20	21	22	23	
									起床 朝食			昼食						夕食				就寝		
<生活!	犬況> 評価項目												<₹>	3後予測欄への	D記入方法>◎)…改善ī	可能 〇	…維持可	能 △…改	善・維持の 	可能性低し	1		
*	中	良好	やや良好	援助にて可	かか困難	困難	自己評価		状態・必要な介助					環境配慮				課題	Ā	本人・意	家族の 向	E	標	予後予測
	①寝返り	5	4	3	2	1		特記:	✓ つかまり		殿部のすらし介助 掛布かけはすし介助	✓ サイドレー/ マット:✓ 特記:梅瘡0	硬 🗆	軟 🗆 🗆	階で就寝 Eア 効果のあるものを	を使用								0
	②起き上がり	5	4	3	2	1		特記:	☑ つかまり		掛布かけはずし介助	✓ サイドレールマット: ✓ 特記:		軟 □ □										0
基本動	③座位	5	4	3	2	1		□ 耐久性低下 ☑ リーチ範囲狭小 特記:	ロ つかまり		重心移動介助	□ 背もたれ□ 介助バー特記:		座面調整:	□ 硬 □	軟								0
作	④立ち上がり	5	4	3	2	1	2	特記:	✓ つかまり□ プッシュアップ		前方重心移動介助 床からの立ち上がり介助 見守り程度	_	□ 低	□高			外出	時に一人 立ち上が 先で、座男 座れない	れない なに			床から安全 立ち上がる できる		0
	⑤立位	5	4	3	2	1		□ 耐久性低下 ☑ リーチ範囲狭小 特記:	✓ つかまり		重心移動介助	✓ 支持物:	畳	カーペット	ロ 滑り」 夫が見守り			- LAVIST						0

	評	価項目		u	援	u								_
大		ф	良好	やや良好	援助にて可	かめ困難	困難	自己評価	状態・必要な介助	環境配慮	課題	本人・家族の 意向	目標	予後予測
	屋	⑥歩行	5	4	3	2	1	2	□ 距離短縮 □ 転倒歴 装具装着に介助 補	 ✓ 装具: ブラスティック製短下肢装具 	下肢装具を装着 しないと移動が できない	自分で装具装着 できるように なりたい	装具装着の自立 夜間のトイレに 間に合うよう 歩行速度の向上	0
	内	⑦車いす	5	4	3	2	1		□ 座位耐久性低下 □ 姿勢保持介助 □ 転倒歴	✓ クッション: 車いす用クッション使用✓ 床面段差: 段差昇降は介助結記: 自走型車いすを使用	通所先では介助を してもらうことが多い			©
Ⅱ 移 動	屋	⑧歩行	5	4	3	2	1		□ 距離短縮 □ 転倒歴 特記: 屋外では不安定な場面あり、付き添い・介助が必要	 ✓ 装具: ✓ 路面環境: 整地のみ 車助具: □ T杖 ✓ 4点杖 □ 歩行器 	屋外を歩く頻度は 少ない			0
	外	⊚車いす	5	4	3	2	1		□ 座位耐久性低下 □ 姿勢保持介助 闘 転倒歴	✓ クッション: 車いす用クッション使用各面環境: □ 整地 □ 不整地 □ 坂道奇記:				0
		⑩階段昇降	5	4	3	2	1	1	□ 転倒歴 ☑ 2足1段	□ 手すり: 未設置 ・	外階段が外出の 制限となっている 手すりが未設置		手すりの設置階段昇降の自立	0
Ⅲ 移 乗		①ベッド・いす・ 赴いすに乗り移る	5	4	3	2	1		ロ いざり ロ ブッシュアップ	✓ 手すり: □ リフト:□ スライディングボード:□ 座面高調整:÷記:				0
		②食事	5	4	3	2	1		□ 疲労 □ 複数回嚥下 ✓ むせ □ 交互嚥下 ✓ 咳嗽力の低下 □ 肺炎の既往	 経警: 日経典 日 青・賜ろう 日 IVH 「食物形態の調整: パサつく食材は避ける	最適な食物形態や特徴 について本人・夫と 共有する必要がある	夫: 手間がかかる為 おかずを小さく刻む ことは避けたい	最適な食物形態で 食事をする (介護食の情報提供)	0
IV 食 事	嚥下	③水分	5	4	3	2	1		✓ むせ 方 gw 力の低下	経管: 日経		水分にとろみは 付けたくない	水分摂取は ストローを使用し 誤嚥の機会が減少 する	0
		④服業	5	4	3	2	1		□ むせ □ 非経□ 形 □ 咳嗽力の低下 □ 飲み忘れ 総	###	右片麻痺の為、薬袋からの 薬の取り出しが難しい	夫に介助されず 自分で服薬したい	薬袋の一包化により 自身で服薬できる	0
		⑤食事動作	5	4	3	2	1		食事姿勢: ☑ いす □ 車いす □ リクライニング □ 姿勢保持介助	✓ 箸✓ スプーン✓ フォーク□ 鼓具:□ 放助者:□ 介助力:= 介助力:= 茶やスプーン等の柄の性状や形状の変化にも対応可能				0
		⑯トイレ動作	5	4	3	2	1	3	ロ 下衣の上げ下ろし介助 ロ 清拭介助	場所: ☑ トイレ □ 居室 □ その他 用具: □ ボータブルトイレ □ 尿器 トイレに手すり未設置 も記: トイレの移動までは下肢装具が必要	夫の見守りが必要	一人でできる ようになりたい 一人で行って 欲しい	手すりの設置に より、自立できる	0
V 排 泄		⑪排尿管理	5	4	3	2	1		✓ 頻度 週に1回程度 □ 服薬管理	□ オムツ ☑ パッド □ リハパン □ その他: トイレまでの動線上に手すり等なく、装具なしで歩けない も記: パッドは夜間のみ使用	夜間のトイレまでの 移動に時間がかかる	失敗をなくしたい	トイレに間に合う よう、歩行速度 が上がる	0
		⑱排便管理	5	4	3	2	1		□ 失禁 □ 時間誘導 □ 頻度 □ 服業管理	ロ オムツ ロ パッド ロ リハパンロ その他:				0

	評価項目	良好	やや良好	援助にて可		困難	状態・必要な介助	環境配慮	課題	本人・家族の意向	目標	予後予測
VI 入	9入浴	5	4	3	2	1	3 回/週 □ つかまり □ 浴室内移動介助 □ シャワー浴 □ 座りまたぎ 特記: 夫が介助を実施	場所: ② 自宅 □ 施設 用具: □ バスボード □ 手すり □ 浴槽台 □ リフト 特記: 浴槽の出入りに介助が必要	手すり等未整備			0
浴	20洗体	5	4	3	2	1	介助箇所: □ 前面 □ 背中 □ 殿部 □ 手先 □ 足先 □ 頭髪 □ その他 特記: 時間が分々るが洗体は可能	用具: ✓ シャワーチェアー ロ 手すり ロ ルーブタオル ロ 柄付きブラシ 特記:				0
Ⅷ 着	②上衣 (下着も含む)	5	4	3	2	1	✓ 座位 □ 衣服の整え介助□ 臥位特記: やや時間がかかるものの自力で可能	□ 自助具: ☑ 衣服の形態: かぶりシャツのみ 特記:				0
替 え	②下衣 (下着も含む)	5	4	3	2	1	✓ 座位 □ 衣服の整え介助□ 臥位特記: 時間がかかるものの自力で可能	□ 自助具: ☑ 衣服の形態: ズボンのみ(胴ゴム) 特記:				0
	②洗顔	5	4	3	2	1	□ 入浴時のみ	場所: <a> 洗面所				0
\ ™ 整	迎整髪	5	4	3	2	1	□ 習慣なし☑ 座位苛位	場所: 口 洗面所 口 その他 用具: 特記:				0
容	⑤ひげ剃り, 化粧	5	4	3	2	1	頻度: ☑ 習慣的 □ 外出時 □ たまに	場所: □ 洗面所 □ その他 用具: 特記:				0
	多爪切り	5	4	3	2	1	介助箇所: ☑ 手指 □ 足指 特記: 左手の爪きりは介助	□ 自助具: 特記:				0
区 口 腔	②歯磨き	5	4	3	2	1	✓ 非利き手義歯: □ 上顎 ✓ 下顎 左下顎臼歯部特記:	ロ 歯ブラシ ロ 粘膜用ブラシ ロ 歯間ブラシ ロ 舌ブラシ ロ 自助具 特記: 電動歯ブラシを使用				0
衛生	②うがい	5	4	3	2	1	□ 清拭 □ 吸引介助 特記:	✓ コップ ロ ガーゼ ロ スポンジブラシ ロ 吸引付きブラシ ロ その他特記:				0
	②趣味・余暇活動	5	4	3	2	1	活動: 入院前は友人との旅行や、自治会の婦人会の活動を楽しんでいた 頻度: 特記: 今はない	< 道具や環境の配慮> □ 身体障害者手帳: 未取得 □ 精神保健福祉手帳:	家族以外の人と 会うことにためらい がある	外出や交流を 楽しんで欲しい	失語症による 会話への不安が なくなる	0
X 参加	30家庭内の役割	5	4	3	2	1	役割: 入院前は家事全般を担っていた 頻度: 特記: 退院してから家事は行っていない	<道具や環境の配慮>	家事を行う自信がない 夫が過介護	家事をやりたい	練習、環境整備に より、取り組める 家事が増える	0
• I 活 動	③外出	5	4	3	2	1	外出先: 通所、病院程度 頻度: 通所は、週2回	☑ 福祉用具: 車いす、杖、4点杖□ 交通手段:	病院、通所以外の 外出先がない	外出を楽しんで 欲しい	外出時の介助量が 減り、外出の頻度が 増える	0
	②金銭管理	5	4	3	2	1	特記: 通院は夫が付き添う 管理者: 夫 特記: 小銭の出し入れがうまく出来ない	特記:	小銭の出し入れが うまくできず夫が すぐに手伝ってしまう			0

	評	価項目	良好	やや良好	援助にて可	やか困難	困難		状態・必要な介助		Ħ	景境配慮	課題	本人・家族の 意向	目標	予後予測
		33指示理解	5	4	3	2	1		方法: ✓ 音声 □ 文字 □ 支援者 □ ジェスチャー □ 記号 □ その他	物品:		□ コミュニケーションツール ☑ 眼鏡				0
	理解	39会話理解	5	4	3	2	1		方法: ☑ 音声 ☑ 文字 ☑ 支援者 □ ジェスチャー □ 記号 夫 □ その他	特記: 物品: 特記:		ロ コミュニケーションツール	失語症に対する 夫の理解が不十分で 対応も不良	会話の内容は概ね分かる	失語症に対する 夫の理解が高まり 適切な対応が 習得される	0
		③メディア 情報の理解	5	4	3	2	1		 方法: ✓ 音声 ✓ 文字 □ 支援者 □ ジェスチャー ✓ 記号 □ その他 特記: ラジオのような音声のみでは理解不良 文字や記号などの併用が必要 	物品:	ロ ラジオ ロ その他	✓ 新聞✓ 雑誌✓ パソコン✓ や記号などがある方が理解しやすい				0
XI □		38基本的要求 の表出	5	4	3	2	1	2	✓ 発語 ✓ 書字 ✓ 音続 ✓ 支援者 ✓ ジェスチャー ✓ 指さし ✓ 描画 夫 □ 表情 □ はい/いいえ	物品:	✓ 筆記用具□ 補聴器□ その他	✓ コミュニケーションツール✓ 眼鏡	夫が過度に代弁してしまい 本人の意思表出機会を 奪ってしまている 失語症に対する	様々な手段を使って 自分で意思を 伝えられるように なりたい	最適な手段により 意思表出の機会が 増える 失語症に対する	0
ュニケーショ	表出	③日常会話	5	4	3	2	1	2		物品:	✓ 筆記用具	で意思を表出することが出来る✓ コミュニケーションツール✓ 眼鏡	夫の理解・対応が不十分		夫の理解・対応の改善	酉
)		38複雑な内容 の意思伝達	5	4	3	2	1	1	ダ 籍字 ダ 音続 ダ 支援者 ダ ジェスチャー ダ 指さし ダ 描画 夫 ダ 表情 ダ はい/いいえ	物品:	☑ 筆記用具	ンノートを使用すると伝達度が向上 ② コミュニケーションツール ② 眼鏡				0
	対	③家族または身近な支援者との交流	5	4	3	2	1		✓ 発語 ✓ 書字 □ 音読 □ 支援者 □ ジェスチャー □ 指さし □ 描画 □ 表情 □ はい/いいえ	特記: 対象者: 場所: 特記:	ロ スタッフ	□ 友人 □ 知人 □ 名の他 □ 自宅外	家族以外との交流がほとんどない	夫の対応に不満を 抱いている	夫の理解・対応が 改善し、 本人との会話意欲が 向上する	© 0
	人 交 流	⑩家族以外の 人との交流	5	4	3	2	1		✓ 発語 ✓ 書字 ✓ 音続 □ 支援者 ✓ ジェスチャー ✓ 指さし ✓ 描画 □ 表情 □ はい/いいえ	対象者:場所:特記:	☑ スタッフ	□ 友人 □ 知人 □ その他 ☑ 自宅外 通院・通所先	コミュニケーションに 自信が無い為、 特定のスタッフとの交流が主	コミュニケーションに 不安はあるが、 色々な人と交流を 持ちたい	交流範囲の拡大	0

<予後予測欄への記入方法>◎…改善可能 ○…維持可能 △…改善・維持の可能性低い

<生活目標>

- トエルロホノ								
	自己評価	1			2			
3 ヶ月後の目標	真の同胞のことも真八つできてとないもの。七の七円がしょを挟み手供も用いてめれたができてとないもの	実行度	3	/	10	6	/	10
3 ケ月後の日標	身の回りのことを自分でできるようになり、夫や夫以外とも多様な手段を用いてやりとりができるようになる。	満足度	3	/	10	5	/	10

く得られた変化>

家庭内の役割も徐々に増え、自らコミュニケーションをとるようになるなど、精神的にも安定してきたと思われる。 また病気に対する家族の理解も良くなり、過介護の改善が図られつつある。 床からの立ち上がりや玄関外階段の昇降が可能となり、外出時の介助量を軽減できた。

<次なる課題>

通院・通所以外の外出の頻度はまだ少なく、通所リハの卒業も視野に入れ、引き続き活動・参加を促せるよう関わっていく。 具体的には、屋外歩行とコミュニケーション能力の向上が必要となると思われる。 合わせて調理などの家庭内の役割についても支援を継続し、自信のある生活を取り戻せるよう関わっていく。